

令和7年度 大田区立立塚中学校 自己評価 報告書

令和7年7月1日

○ 本校の概要

本校は、全校生徒472名(5月1日現在)、14学級の学校です。人権尊重の精神と国際人としての資質・能力を身に付け、心豊かで生きる力をもった生徒を育成するため、「進んで学び、広い視野をもった人間を育てる」、「思いやりがあり、責任を重んじる人間を育てる」、「健康で明るく、たくましい人間を育てる」の3つの目標を掲げています。
授業では、生徒の主体的・対話的で深い学びができる授業、ICTを活用した授業に取り組んでいます。また、生徒自身の能力と創造性の伸長を図るため、「体育祭」「若木祭」などの行事は生徒中心に実施しています。生徒が活躍する場を増やすよう、教職員で力を合わせて取り組んでいきます。この中から助け合いの精神と粘り強い取り組み姿勢が育っています。そして、「生徒にとって、教職員にとっても、今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」、「あいさつがしっかりとできる生徒・清潔感のあるきれいな学校」、「生徒の美しい歌声が響く学校」を目指します。
PTAによる「部活動見守り」や「朝の挨拶運動」などや、スクールサポート員塚による「学校の環境整備」や「講師派遣」など、地域の学校として保護者・地域の皆様から多大なご協力をいただいています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 方向性 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組今後の改善策 | 学校関係者記入欄 |
|-----------------------------------|---|---|---|---|--|------|---------------|----------|
| | | | | | | | | 評価 人数 |
| | | | | | | | | コメント |
| 生予個性測別力困難をな1育未成来し社会を創造的に | 社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。 | ①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校教員評価で「主体的に考え、課題解決力・情報活用能力を育成する取組を教員が行ったか」という各項目合計で、できた・行った・活用したと答えた教員の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | ④「思考力・判断力・表現力」育成を目指し、生徒の自主的自発的な活動を取り入れた授業を実施する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | | | | | D |
| お世個別お目をつ目標な2うが人材国際育都成市します | 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。 | ①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校教員評価で「英語でのコミュニケーション能力を高める、我が国と郷土を愛する態度を養う、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成する取組内容を教員が行ったか」という各項目合計で、できた・行った・活用したと答えた教員の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | | | | | | | D |
| た一人別の目基と標礎り3がな個性と能力を育成を力発揮する | 児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。 | ①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校生徒評価で、「豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成、乳幼児期から中学校までの一貫教育を推進します」等の項目における肯定的な評価の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | D |
| 学個別力目標4師力を向上させます | 校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。 | ①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校教員評価で「教師の授業力を向上、学校の組織的な運営力を向上、魅力的な環境づくりを進める取組内容を教員が行ったか」という各項目で、できた・行った・活用したと答えた教員の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 | 4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | | | | | | | D |
| た自個め別の目学し標びく5をいき援いきと生きる | 困難のある児童生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。 | ①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校生徒評価で、「生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整える、自分らしくいきいきと生きるための学びを支援」等の項目における肯定的な評価の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 | 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | | | | | | | D |
| 安柔個性軟心で目教創標育造6環的境な学習空間と安全 | 学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。 | ①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校教員評価で「ICT環境等の教育環境の整備、生徒の安全・安心を向上させるための教育の推進などの取組内容を教員が行ったか」という各項目合計で、できた・行った・実施したと答えた教員の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②避難訓練や安全指導などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③ICT環境を整え、授業で積極的に一人一台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの授業を実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | | | | | | | D |
| 学地学個別校域校をコア目家コミュニティ地域7の核と連携し協働による | 地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。 | ①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 学校保護者評価における、「地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。」の項目における肯定的な評価の割合 | 4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満 | | | A |
| | | ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | B |
| | | ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | C |
| | | ④PTAと連携して、部活動時間の安全確保のため、必要な時間に保護者の部活動見守りをお願いする。 | 4:月に2～3回行った。 3:月に1回以上行った。 2:学期に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | | | | | D |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。